

ひので映画大使最新版

第20回映画大使「星守る犬」

期 日 平成23年6月7日(火)
場 所 ワーナー・マイカル・シネマズ日の出

【ストーリー紹介】

とある山中に放置されたワゴン車から、中年男性と犬の遺体が発見された。市役所の福祉課に勤める京介は、偶然出会った少女・有希と共に、男性と犬のたどってきた道のりを追う旅に出る。

おじさんとハッピーの旅は東京から北海道へと続く。途中で出会った人々に忘れられない思い出を残して、時に可笑しく、時に哀しく綴られる旅の記録。現代社会の様々な問題に翻弄されながらも、人と人、人と動物との愛情と絆が描かれる。旅の終着点で知る「星守る犬」という言葉に込められた願いとは・・・



(C)「星守る犬」製作委員会

映画大使の「感動と感想」をお伝えします。



今回はご覧の皆さんに参加していただきました。

～映画を見た感想や感動を、ストーリーは伏せて「みなさん」に紹介するコーナーです～

▶ 映画大使の「第一声！」

- ・人との絆、動物との愛情を描いた感動作！
- ・届かないものを掴もうとするのは決して無駄ではない。「星守る犬」という言葉の意味が心に沁みた・・・
- ・犬の演技が素晴らしい！まさにキャストの一員だった！
- ・美しい自然の中で描かれるストーリーに心洗われた！

▶ 映画大使の「映画のツボ！」

Aさん

「自分に帰る場所というか、心のよりどころとなる人とか動物がいるのはすごくいいなと思いました。(西田敏行さん)おとうさんは、家族の所へ帰ろうとするけれど、結局帰れなかった。でもハッピーという支えがあった。切ないシーあったけれど、すごく犬から愛されて、犬を愛して。私は最後はすごく良かったと思いました。「掴めない星を掴もうと人間だ」というセリフがありましたが、心に支えとなるものがあれば、前向きになれるし、掴めないものでも追いかける。挫折とかを味わっても、自分だけの力で乗り越えるのではなく、そういう支えがあって乗り越えられるのかなと。私もそういうものに出会いたいと思いました。」

Bさん

「家族の前だと素直でなく、不器用なおとうさんも、犬の前では逆になる。原作はコミックスですが、この映画のよ社会でも十分あり得る内容だと思いました。」

Cさん

「私は犬を飼った事はありませんが、相手を思う気持ちとか、色々な挫折を味わいながらも、誰かに支えてもらいていく主人公の姿に、自分にもあてはまるもの、やっぱり家族がいて、そういう人達の中で自分は支えられているじさせられました。この映画では、様々な所でロケをしていて、大自然の中で進んでいく物語が、命に繋がる素晴や、生きていて良かったという思いを実感させてくれましたし、人生の新たなスタートをきる気持ちにもさせてくれ

Dさん

「私も犬は飼った事はありませんが、この映画では人間が犬に救われた部分がとても多いと感じました。(玉山錦じる)京介と(川島海荷さん演じる)有希が旅をしていく過程で成長していく姿も、良く描かれていましたね。タイトル「犬」というのは、どういう意味なのだろうと思って観ていましたが、藤竜也さんが演じたおじいさんのセリフで説明されるほどな、と思いました。ああいう気持ちを持ち続ける事が大切なのだと感じました。年と共に次第にそういう気持ちになってしまいますからね。また、景色が素晴らしく、特にあのひまわり畑の場面は、昔観た『ひまわり』という映画を思い出した。音楽も効果的でしたね。」

Eさん

「おとうさんが不器用でしたが、もう少し話し合いや家族との触れ合いなどを大切にしていれば、ああいう話にはなたでしょうね。考えさせられる事が多かったです。私も自然の美しさに感動しました。」

Fさん

「映画と照らし合わせてみると、自分達が現在楽しく、幸せに暮らしているのを実感し、またそう暮らせる環境を求いておいて良かったと思いました。また、犬を飼う人が最近多いけれど、犬は言葉が話せないので、映画のシー痛い思いをしてしまう事があるのは、人間がもっと考えなければいけない事だと思います。忠犬ハチ公のように最後まで主人につきそう姿は本当に切なかったです。」

Gさん

「男って寂しいなあと感じました。むしろこの映画は妻に見て欲しいと思います。私は犬を飼っていますが、犬と本当に“かすがい”になる。少しの出来事も犬のおかげで丸く収まる事もあります。私は愛犬にたまに「幸せかいる事があります。犬は飼い主によって幸不幸が決まるから、犬を飼っている人は本当に考えて飼う責任がある。」ハッピーは最後は幸せだったとは思うけど、結末的には考えさせられますね。」

▶ 作品の内容 (印象に残ったシーンなど)

- ・犬とのやりとりのシーンや、夫婦間のシーンでは、自分の経験と重なる所が結構あって、ドキッとさせられました
- ・美しい景色満載のロードムービーだったが、被災前の東北地方でのロケもあった事から、鎮痛な思いを感じました
- ・夫婦間では、確かに上手いきませんでした。男の生き方としては幸せだったのかもしれないですね。
- ・犬の演技が本当に素晴らしかった。エンドロールでキャストと一緒に名前が出てもおかしくないのでは？(クレジいたかどうかは確認出来ませんでした)

・三浦友和さんや余貴美子さんなどのベテランが、上手く脇を固めていましたね。

▶ まとめ

この映画は、キャッチコピーのように結末は悲劇的でも、何故か心が温くなる映画でした。昔から人間と深く関動物達。特に犬や猫などは、まさに家族の一員として、人間から支えられる一方、人間を支える役割もかなり果たす。この映画のお父さんとハッピーのように、お互いにとって、正にかけがいのない存在となる関係は、人との関係希薄な現代において、何か訴えるものがあると深く感じました。

震災の影響もあり、開催が延期となっていた映画大使ですが、新規の方を含め32名と、多くの方がご登録いただき、今後も多くの映画を通して、皆様の大使として映画の素晴らしさを伝えていけたらと考えています。

▶ [関連ページ: ひので映画大使のトップに戻る](#)

問合わせ先: 教育委員会文化スポーツ課社会教育係

電話042-597-0511(内線544)

◀ [前のページへ戻る](#) | [ページ](#)

〒190-0192 東京都西多摩郡日の出町平井2780番地 電話 042-597-0511(代表)

サイトマップ

Copyright © 2010 Hinode Town All Rights Reserved.